



Red Hat

OpenShift Container Platform 4.18

ユーザーおよびグループ API

ユーザーおよびグループ API のリファレンスガイド

OpenShift Container Platform 4.18 ユーザーおよびグループ API

ユーザーおよびグループ API のリファレンスガイド

Legal Notice

Copyright © 2025 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux® is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java® is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS® is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL® is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js® is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack® Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

Abstract

このドキュメントでは、OpenShift Container Platform のユーザーおよびグループ API オブジェクトとその詳細な仕様を説明します。

Table of Contents

第1章 ユーザーおよびグループ API	3
1.1. GROUP [USER.OPENSIFT.IO/V1]	3
1.2. IDENTITY [USER.OPENSIFT.IO/V1]	3
1.3. USERIDENTITYMAPPING [USER.OPENSIFT.IO/V1]	3
1.4. USER [USER.OPENSIFT.IO/V1]	3
第2章 GROUP [USER.OPENSIFT.IO/V1]	4
2.1. 仕様	4
2.2. API エンドポイント	5
第3章 IDENTITY [USER.OPENSIFT.IO/V1]	12
3.1. 仕様	12
3.2. API エンドポイント	13
第4章 USERIDENTITYMAPPING [USER.OPENSIFT.IO/V1]	21
4.1. 仕様	21
4.2. API エンドポイント	22
第5章 USER [USER.OPENSIFT.IO/V1]	27
5.1. 仕様	27
5.2. API エンドポイント	28

第1章 ユーザーおよびグループ API

1.1. GROUP [USER.OPENSIFT.IO/V1]

説明

Group は、参照可能な Users のセットを表します

互換性レベル 1: メジャーリリース内で最低 12 か月または 3 つのマイナーリース (どちらか長い方) の間安定しています。

型

object

1.2. IDENTITY [USER.OPENSIFT.IO/V1]

説明

Identity は、ID プロバイダーによるユーザーの認証の成功を記録します。認証のソースに関する情報は ID に保存され、ID は単一のユーザオブジェクトに関連付けられます。複数の ID が1人のユーザーを参照できます。認証プロバイダーから取得した情報は、プロバイダーによって決定されたスキーマを使用して追加フィールドに格納されます。

互換性レベル 1: メジャーリリース内で最低 12 か月または 3 つのマイナーリース (どちらか長い方) の間安定しています。

型

object

1.3. USERIDENTITYMAPPING [USER.OPENSIFT.IO/V1]

説明

UserIdentityMapping は、ユーザーを ID にマップします

互換性レベル 1: メジャーリリース内で最低 12 か月または 3 つのマイナーリース (どちらか長い方) の間安定しています。

型

object

1.4. USER [USER.OPENSIFT.IO/V1]

説明

ログインすると、システムのすべてのユーザーが User および ID リソースを受け取ります。管理者は、ユーザーの属性を直接操作して独自の追跡を行ったり、API を介してグループを設定したりできます。ユーザー名は一意であり、ID プロバイダーから提供された値に基づいて選択されます。ユーザーが着信名で存在する場合は、システムの設定に応じてユーザー名に番号が追加されることがあります。

互換性レベル 1: メジャーリリース内で最低 12 か月または 3 つのマイナーリース (どちらか長い方) の間安定しています。

型

object

第2章 GROUP [USER.OPENSIFT.IO/V1]

説明

Group は、参照可能な Users のセットを表します

互換性レベル 1: メジャーリリース内で最低 12 か月または 3 つのマイナーリリース (どちらか長い方) の間安定しています。

型

object

必須

- **users**

2.1. 仕様

プロパティ	型	説明
apiVersion	string	APIVersion はオブジェクトのこの表現のバージョンスキーマを定義します。サーバーは認識されたスキーマを最新の内部値に変換し、認識されない値は拒否することができます。詳細は、 https://git.k8s.io/community/contributors/devel/sig-architecture/api-conventions.md#resources を参照してください。
kind	string	kind はこのオブジェクトが表す REST リソースを表す文字列の値です。サーバーはクライアントが要求を送信するエンドポイントからこれを推測できる場合があります。これを更新することはできません。CamelCase を使用します。詳細は、 https://git.k8s.io/community/contributors/devel/sig-architecture/api-conventions.md#types-kinds を参照してください。
metadata	ObjectMeta	metadata は標準オブジェクトのメタデータです。詳細は、 https://git.k8s.io/community/contributors/devel/sig-architecture/api-conventions.md#metadata を参照してください。

プロパティ	型	説明
users	array (string)	ユーザーは、このグループのユーザーのリストです。

2.2. API エンドポイント

以下の API エンドポイントを利用できます。

- **/apis/user.openshift.io/v1/groups**
 - **DELETE**: Group のコレクションを削除する
 - **GET**: 種類 Group のオブジェクトをリスト表示または監視する
 - **POST**: グループを作成する
- **/apis/user.openshift.io/v1/watch/groups**
 - **GET**: Group のリストに対する個々の変更を監視する。非推奨: 代わりに、リスト操作で 'watch' パラメーターを使用してください。
- **/apis/user.openshift.io/v1/groups/{name}**
 - **DELETE**: Group を削除する
 - **GET**: 指定された Group を読み取る
 - **PATCH**: 指定された Group を部分的に更新する
 - **PUT**: 指定された Group を置き換える
- **/apis/user.openshift.io/v1/watch/groups/{name}**
 - **GET**: 種類 Group のオブジェクトへの変更を監視する。非推奨: 代わりに、リスト操作で 'watch' パラメーターを使用し、「fieldSelector」パラメーターで単一の項目にフィルター処理します。

2.2.1. /apis/user.openshift.io/v1/groups

HTTP メソッド

DELETE

説明

グループのコレクションを削除する

表2.1 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
--------	---	----

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。

表2.2 HTTP レスポンス

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	Status スキーマ
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド**GET****説明**

種類 Group のオブジェクトをリスト表示または監視するロール

表2.3 HTTP レスポンス

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	GroupList スキーマ
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド**POST****説明**

グループを作成する

表2.4 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。

パラメーター	型	説明
fieldValidation	string	fieldValidation は、不明なフィールドまたは重複したフィールドを含むリクエスト (POST/PUT/PATCH) 内のオブジェクトを処理する方法をサーバーに指示します。有効な値は Ignore です。オブジェクトからサイレントにドロップされた不明なフィールドを無視し、デコーダーが検出した最後の重複フィールドを除くすべてを無視します。これは、v1.23 より前のデフォルトの動作です。 - Warn: オブジェクトから削除された不明なフィールドごと、および検出された重複フィールドごとに、標準の警告応答ヘッダーを介して警告が送信されます。他にエラーがなければ要求は成功し、重複するフィールドの最後のものだけを保持します。これは v1.23 以降のデフォルトです。 - Strict: 不明なフィールドがオブジェクトから削除される場合、または重複フィールドが存在する場合は、リクエストが BadRequest エラーで失敗します。サーバーから返されるエラーには、検出されたすべての不明な重複フィールドが含まれます。

表2.5 ボディのパラメーター

パラメーター	型	説明
body	Group スキーマ	

表2.6 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	Group スキーマ
201 - Created	Group スキーマ
202 - Accepted	Group スキーマ
401 - Unauthorized	空白

2.2.2. /apis/user.openshift.io/v1/watch/groups

HTTP メソッド

GET

説明

Group のリストに対する個々の変更を監視する。非推奨: 代わりに、リスト操作で 'watch' パラメーターを使用してください。

表2.7 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	WatchEvent スキーマ
401 - Unauthorized	空白

2.2.3. /apis/user.openshift.io/v1/groups/{name}

表2.8 グローバルパスパラメーター

パラメーター	型	説明
name	string	Group の名前

HTTP メソッド

DELETE

説明

Group を削除する

表2.9 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。

表2.10 HTTP レスポンス

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	Status スキーマ
202 - Accepted	Status スキーマ
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド

GET

説明

指定された Group を読み取る

表2.11 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	Group スキーマ
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド**PATCH****説明**

指定された Group を部分的に更新する

表2.12 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。
fieldValidation	string	fieldValidation は、不明なフィールドまたは重複したフィールドを含むリクエスト (POST/PUT/PATCH) 内のオブジェクトを処理する方法をサーバーに指示します。有効な値は Ignore です。オブジェクトからサイレントにドロップされた不明なフィールドを無視し、デコーダーが検出した最後の重複フィールドを除くすべてを無視します。これは、v1.23 より前のデフォルトの動作です。- Warn: オブジェクトから削除された不明なフィールドごと、および検出された重複フィールドごとに、標準の警告応答ヘッダーを介して警告が送信されます。他にエラーがなければ要求は成功し、重複するフィールドの最後のものだけを保持します。これは v1.23 以降のデフォルトです。- Strict: 不明なフィールドがオブジェクトから削除される場合、または重複フィールドが存在する場合は、リクエストが BadRequest エラーで失敗します。サーバーから返されるエラーには、検出されたすべての不明な重複フィールドが含まれます。

表2.13 HTTP レスポンス

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	Group スキーマ
201 - Created	Group スキーマ

HTTP コード	レスポンスのボディー
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド

PUT

説明

指定されたグループを置き換える

表2.14 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。
fieldValidation	string	fieldValidation は、不明なフィールドまたは重複したフィールドを含むリクエスト (POST/PUT/PATCH) 内のオブジェクトを処理する方法をサーバーに指示します。有効な値は Ignore です。オブジェクトからサイレントにドロップされた不明なフィールドを無視し、デコーダーが検出した最後の重複フィールドを除くすべてを無視します。これは、v1.23 より前のデフォルトの動作です。- Warn: オブジェクトから削除された不明なフィールドごと、および検出された重複フィールドごとに、標準の警告応答ヘッダーを介して警告が送信されます。他にエラーがなければ要求は成功し、重複するフィールドの最後のものだけを保持します。これは v1.23 以降のデフォルトです。- Strict: 不明なフィールドがオブジェクトから削除される場合、または重複フィールドが存在する場合は、リクエストが BadRequest エラーで失敗します。サーバーから返されるエラーには、検出されたすべての不明な重複フィールドが含まれます。

表2.15 ボディのパラメーター

パラメーター	型	説明
body	Group スキーマ	

表2.16 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
----------	------------

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	Group スキーマ
201 - Created	Group スキーマ
401 - Unauthorized	空白

2.2.4. /apis/user.openshift.io/v1/watch/groups/{name}

表2.17 グローバルパスパラメーター

パラメーター	型	説明
name	string	Group の名前

HTTP メソッド

GET

説明

種類 Group のオブジェクトへの変更を監視する。非推奨: 代わりに、リスト操作で 'watch' パラメーターを使用し、'fieldSelector' パラメーターで単一の項目にフィルター処理します。

表2.18 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	WatchEvent スキーマ
401 - Unauthorized	空白

第3章 IDENTITY [USER.OPENSIFT.IO/V1]

説明

Identity は、ID プロバイダーによるユーザーの認証の成功を記録します。認証のソースに関する情報は ID に保存され、ID は単一のユーザー オブジェクトに関連付けられます。複数の ID が1人のユーザーを参照できます。認証プロバイダーから取得した情報は、プロバイダーによって決定されたスキーマを使用して追加フィールドに格納されます。

互換性レベル 1: メジャーリリース内で最低 12 か月または 3 つのマイナーリリース (どちらか長い方) の間安定しています。

型

object

必須

- **providerName**
- **providerUserName**
- **user**

3.1. 仕様

プロパティ	型	説明
apiVersion	string	APIVersion はオブジェクトのこの表現のバージョンスキーマを定義します。サーバーは認識されたスキーマを最新の内部値に変換し、認識されない値は拒否することができます。詳細は、 https://git.k8s.io/community/contributors/devel/sig-architecture/api-conventions.md#resources を参照してください。
extra	object (string)	Extra は、この ID に関する追加情報を保持します

プロパティ	型	説明
kind	string	kind はこのオブジェクトが表す REST リソースを表す文字列の値です。サーバーはクライアントが要求を送信するエンドポイントからこれを推測できる場合があります。これを更新することはできません。CamelCase を使用します。 詳細は、 https://git.k8s.io/community/contributors/devel/sig-architecture/api-conventions.md#types-kinds を参照してください。
metadata	ObjectMeta	metadata は標準オブジェクトのメタデータです。 詳細は、 https://git.k8s.io/community/contributors/devel/sig-architecture/api-conventions.md#metadata を参照してください。
providerName	string	ProviderName は ID 情報のソースです
providerUserName	string	ProviderUserName は、 プロバイダーのスコープ内でこの ID を一意に表します
user	ObjectReference	ユーザーは、 この ID が関連付けられているユーザーへの参照です。 Name と UID の両方を設定する必要があります

3.2. API エンドポイント

以下の API エンドポイントを利用できます。

- **/apis/user.openshift.io/v1/identities**
 - **DELETE**: ID のコレクションを削除する
 - **GET**: 種類 ID のオブジェクトをリスト表示または監視する
 - **POST**: ID を作成する
- **/apis/user.openshift.io/v1/watch/identities**
 - **GET**: Identity のリストへの個々の変更を監視する。 非推奨: 代わりに、 リスト操作で 'watch' パラメーターを使用してください。

- **/apis/user.openshift.io/v1/identities/{name}**
 - **DELETE**: ID を削除する
 - **GET**: 指定された ID を読み取る
 - **PATCH**: 指定された ID を部分的に更新する
 - **PUT**: 指定された ID を置き換える
- **/apis/user.openshift.io/v1/watch/identities/{name}**
 - **GET**: 種類 Identity のオブジェクトへの変更を監視する。非推奨: 代わりに、リスト操作で 'watch' パラメーターを使用し、'fieldSelector' パラメーターで单一の項目にフィルター処理します。

3.2.1. /apis/user.openshift.io/v1/identities

HTTP メソッド

DELETE

説明

ID のコレクションを削除する

表3.1 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。

表3.2 HTTP レスポンス

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	Status スキーマ
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド

GET

説明

種類 ID のオブジェクトをリスト表示または監視する

表3.3 HTTP レスポンス

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	IdentityList スキーマ
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド

POST

説明

ID を作成する

表3.4 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。
fieldValidation	string	fieldValidation は、不明なフィールドまたは重複したフィールドを含むリクエスト (POST/PUT/PATCH) 内のオブジェクトを処理する方法をサーバーに指示します。有効な値は Ignore です。オブジェクトからサイレントにドロップされた不明なフィールドを無視し、デコーダーが検出した最後の重複フィールドを除くすべてを無視します。これは、v1.23 より前のデフォルトの動作です。- Warn: オブジェクトから削除された不明なフィールドごと、および検出された重複フィールドごとに、標準の警告応答ヘッダーを介して警告が送信されます。他にエラーがなければ要求は成功し、重複するフィールドの最後のものだけを保持します。これは v1.23 以降のデフォルトです。- Strict: 不明なフィールドがオブジェクトから削除される場合、または重複フィールドが存在する場合は、リクエストが BadRequest エラーで失敗します。サーバーから返されるエラーには、検出されたすべての不明な重複フィールドが含まれます。

表3.5 ボディのパラメーター

パラメーター	型	説明
body	Identity スキーマ	

表3.6 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	Identity スキーマ
201 - Created	Identity スキーマ
202 - Accepted	Identity スキーマ
401 - Unauthorized	空白

3.2.2. /apis/user.openshift.io/v1/watch/identities

HTTP メソッド

GET

説明

Identity のリストへの個々の変更を監視する。非推奨: 代わりに、リスト操作で 'watch' パラメーターを使用してください。

表3.7 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	WatchEvent スキーマ
401 - Unauthorized	空白

3.2.3. /apis/user.openshift.io/v1/identities/{name}

表3.8 グローバルパスパラメーター

パラメーター	型	説明
name	string	Identity の名前

HTTP メソッド

DELETE

説明

ID を削除する

表3.9 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。

表3.10 HTTP レスポンス

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	Status スキーマ
202 - Accepted	Status スキーマ
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド**GET****説明**

指定された ID を読み取る

表3.11 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	Identity スキーマ
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド**PATCH****説明**

指定された ID を部分的に更新する

表3.12 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。

パラメーター	型	説明
fieldValidation	string	fieldValidation は、不明なフィールドまたは重複したフィールドを含むリクエスト (POST/PUT/PATCH) 内のオブジェクトを処理する方法をサーバーに指示します。有効な値は Ignore です。オブジェクトからサイレントにドロップされた不明なフィールドを無視し、デコーダーが検出した最後の重複フィールドを除くすべてを無視します。これは、v1.23 より前のデフォルトの動作です。 - Warn: オブジェクトから削除された不明なフィールドごと、および検出された重複フィールドごとに、標準の警告応答ヘッダーを介して警告が送信されます。他にエラーがなければ要求は成功し、重複するフィールドの最後のものだけを保持します。これは v1.23 以降のデフォルトです。 - Strict: 不明なフィールドがオブジェクトから削除される場合、または重複フィールドが存在する場合は、リクエストが BadRequest エラーで失敗します。サーバーから返されるエラーには、検出されたすべての不明な重複フィールドが含まれます。

表3.13 HTTP レスポンス

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	Identity スキーマ
201 - Created	Identity スキーマ
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド

PUT

説明

指定された ID を置き換える

表3.14 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。

パラメーター	型	説明
fieldValidation	string	fieldValidation は、不明なフィールドまたは重複したフィールドを含むリクエスト (POST/PUT/PATCH) 内のオブジェクトを処理する方法をサーバーに指示します。有効な値は Ignore です。オブジェクトからサイレントにドロップされた不明なフィールドを無視し、デコーダーが検出した最後の重複フィールドを除くすべてを無視します。これは、v1.23 より前のデフォルトの動作です。 - Warn: オブジェクトから削除された不明なフィールドごと、および検出された重複フィールドごとに、標準の警告応答ヘッダーを介して警告が送信されます。他にエラーがなければ要求は成功し、重複するフィールドの最後のものだけを保持します。これは v1.23 以降のデフォルトです。 - Strict: 不明なフィールドがオブジェクトから削除される場合、または重複フィールドが存在する場合は、リクエストが BadRequest エラーで失敗します。サーバーから返されるエラーには、検出されたすべての不明な重複フィールドが含まれます。

表3.15 ボディのパラメーター

パラメーター	型	説明
body	Identity スキーマ	

表3.16 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	Identity スキーマ
201 - Created	Identity スキーマ
401 - Unauthorized	空白

3.2.4. /apis/user.openshift.io/v1/watch/identities/{name}

表3.17 グローバルパスパラメーター

パラメーター	型	説明
name	string	Identity の名前

HTTP メソッド

GET

説明

種類 ID のオブジェクトへの変更を監視する。非推奨: 代わりに、リスト操作で 'watch' パラメーターを使用し、'fieldSelector' パラメーターで単一の項目にフィルター処理します。

表3.18 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	WatchEvent スキーマ
401 - Unauthorized	空白

第4章 USERIDENTITYMAPPING [USER.OPENSHIFT.IO/V1]

説明

UserIdentityMapping は、ユーザーを ID にマップします

互換性レベル 1: メジャーリリース内で最低 12 か月または 3 つのマイナーリリース (どちらか長い方) の間安定しています。

型

object

4.1. 仕様

プロパティ	型	説明
apiVersion	string	APIVersion はオブジェクトのこの表現のバージョンスキーマを定義します。サーバーは認識されたスキーマを最新の内部値に変換し、認識されない値は拒否することができます。詳細は、 https://git.k8s.io/community/contributors/devel/sig-architecture/api-conventions.md#resources を参照してください。
identity	ObjectReference	Identity は ID への参照です
kind	string	kind はこのオブジェクトが表す REST リソースを表す文字列の値です。サーバーはクライアントが要求を送信するエンドポイントからこれを推測できる場合があります。これを更新することはできません。CamelCase を使用します。詳細は、 https://git.k8s.io/community/contributors/devel/sig-architecture/api-conventions.md#types-kinds を参照してください。
metadata	ObjectMeta	metadata は標準オブジェクトのメタデータです。詳細は、 https://git.k8s.io/community/contributors/devel/sig-architecture/api-conventions.md#metadata を参照してください。

プロパティ	型	説明
user	ObjectReference	ユーザーは、ユーザーへの参照です。

4.2. API エンドポイント

以下の API エンドポイントを利用できます。

- **/apis/user.openshift.io/v1/useridentitymappings**
 - **POST**: UserIdentityMapping を作成する
- **/apis/user.openshift.io/v1/useridentitymappings/{name}**
 - **DELETE**: UserIdentityMapping を削除する
 - **GET**: 指定された UserIdentityMapping を読み取る
 - **PATCH**: 指定された UserIdentityMapping を部分的に更新する
 - **PUT**: 指定された UserIdentityMapping を置き換える

4.2.1. /apis/user.openshift.io/v1/useridentitymappings

表4.1 グローバルクエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。

パラメーター	型	説明
fieldValidation	string	fieldValidation は、不明なフィールドまたは重複したフィールドを含むリクエスト (POST/PUT/PATCH) 内のオブジェクトを処理する方法をサーバーに指示します。有効な値は Ignore です。オブジェクトからサイレントにドロップされた不明なフィールドを無視し、デコーダーが検出した最後の重複フィールドを除くすべてを無視します。これは、v1.23 より前のデフォルトの動作です。 - Warn: オブジェクトから削除された不明なフィールドごと、および検出された重複フィールドごとに、標準の警告応答ヘッダーを介して警告が送信されます。他にエラーがなければ要求は成功し、重複するフィールドの最後のものだけを保持します。これは v1.23 以降のデフォルトです。 - Strict: 不明なフィールドがオブジェクトから削除される場合、または重複フィールドが存在する場合は、リクエストが BadRequest エラーで失敗します。サーバーから返されるエラーには、検出されたすべての不明な重複フィールドが含まれます。

HTTP メソッド

POST

説明

UserIdentityMapping を作成する

表4.2 本文パラメーター

パラメーター	型	説明
body	UserIdentityMapping キーマ	

表4.3 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	UserIdentityMapping キーマ
201 - Created	UserIdentityMapping キーマ
202 - Accepted	UserIdentityMapping キーマ
401 - Unauthorized	空白

4.2.2. /apis/user.openshift.io/v1/useridentitymappings/{name}

表4.4 グローバルパスパラメーター

パラメーター	型	説明
name	string	UserIdentityMapping の名前

HTTP メソッド**DELETE****説明**

UserIdentityMapping を削除する

表4.5 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。

表4.6 HTTP レスポンス

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	Status スキーマ
202 - Accepted	Status スキーマ
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド**GET****説明**

指定された UserIdentityMapping を読み取る

表4.7 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	UserIdentityMapping スキーマ
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド**PATCH****説明**

指定された UserIdentityMapping を部分的に更新する

表4.8 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。
fieldValidation	string	fieldValidation は、不明なフィールドまたは重複したフィールドを含むリクエスト (POST/PUT/PATCH) 内のオブジェクトを処理する方法をサーバーに指示します。有効な値は Ignore です。オブジェクトからサイレントにドロップされた不明なフィールドを無視し、デコーダーが検出した最後の重複フィールドを除くすべてを無視します。これは、v1.23 より前のデフォルトの動作です。- Warn: オブジェクトから削除された不明なフィールドごと、および検出された重複フィールドごとに、標準の警告応答ヘッダーを介して警告が送信されます。他にエラーがなければ要求は成功し、重複するフィールドの最後のものだけを保持します。これは v1.23 以降のデフォルトです。- Strict: 不明なフィールドがオブジェクトから削除される場合、または重複フィールドが存在する場合は、リクエストが BadRequest エラーで失敗します。サーバーから返されるエラーには、検出されたすべての不明な重複フィールドが含まれます。

表4.9 HTTP レスポンス

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	UserIdentityMapping スキーマ
201 - Created	UserIdentityMapping スキーマ
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド

PUT

説明

指定された UserIdentityMapping を置き換える

表4.10 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。
fieldValidation	string	fieldValidation は、不明なフィールドまたは重複したフィールドを含むリクエスト (POST/PUT/PATCH) 内のオブジェクトを処理する方法をサーバーに指示します。有効な値は Ignore です。オブジェクトからサイレントにドロップされた不明なフィールドを無視し、デコーダーが検出した最後の重複フィールドを除くすべてを無視します。これは、v1.23 より前のデフォルトの動作です。- Warn: オブジェクトから削除された不明なフィールドごと、および検出された重複フィールドごとに、標準の警告応答ヘッダーを介して警告が送信されます。他にエラーがなければ要求は成功し、重複するフィールドの最後のものだけを保持します。これは v1.23 以降のデフォルトです。- Strict: 不明なフィールドがオブジェクトから削除される場合、または重複フィールドが存在する場合は、リクエストが BadRequest エラーで失敗します。サーバーから返されるエラーには、検出されたすべての不明な重複フィールドが含まれます。

表4.11 ポディのパラメーター

パラメーター	型	説明
body	UserIdentityMapping スキーマ	

表4.12 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	UserIdentityMapping スキーマ
201 - Created	UserIdentityMapping スキーマ
401 - Unauthorized	空白

第5章 USER [USER.OPENShift.IO/V1]

説明

ログインすると、システムのすべてのユーザーが User および ID リソースを受け取ります。管理者は、ユーザーの属性を直接操作して独自の追跡を行ったり、API を介してグループを設定したりできます。ユーザー名は一意であり、ID プロバイダーから提供された値に基づいて選択されます。ユーザーが着信名で存在する場合は、システムの設定に応じてユーザー名に番号が追加されることがあります。

互換性レベル 1: メジャーリリース内で最低 12 か月または 3 つのマイナーリース (どちらか長い方) の間安定しています。

型

object

必須

- **groups**

5.1. 仕様

プロパティ	型	説明
apiVersion	string	APIVersion はオブジェクトのこの表現のバージョンスキーマを定義します。サーバーは認識されたスキーマを最新の内部値に変換し、認識されない値は拒否することができます。詳細は、 https://git.k8s.io/community/contributors/devel/sig-architecture/api-conventions.md#resources を参照してください。
fullName	string	FullName はユーザーのフルネームです。
groups	array (string)	Groups は、このユーザーがメンバーになっているグループ名を指定します。このフィールドは非推奨であり、将来のリリースで削除される予定です。代わりに、このUser の名前を含む Group オブジェクトを作成します。
identities	array (string)	ID は、このユーザーに関連付けられている ID です。

プロパティ	型	説明
kind	string	kind はこのオブジェクトが表す REST リソースを表す文字列の値です。サーバーはクライアントが要求を送信するエンドポイントからこれを推測できる場合があります。これを更新することはできません。CamelCase を使用します。詳細は、 https://git.k8s.io/community/contributors/devel/sig-architecture/api-conventions.md#types-kinds を参照してください。
metadata	ObjectMeta	metadata は標準オブジェクトのメタデータです。詳細は、 https://git.k8s.io/community/contributors/devel/sig-architecture/api-conventions.md#metadata を参照してください。

5.2. API エンドポイント

以下の API エンドポイントを利用できます。

- **/apis/user.openshift.io/v1/users**
 - **DELETE**: User のコレクションを削除する
 - **GET**: 種類 User のオブジェクトをリスト表示または監視する
 - **POST**: ユーザーを作成する
- **/apis/user.openshift.io/v1/watch/users**
 - **GET**: User のリストに対する個々の変更を監視する。非推奨: 代わりに、リスト操作で 'watch' パラメーターを使用してください。
- **/apis/user.openshift.io/v1/users/{name}**
 - **DELETE**: User を削除する
 - **GET**: 指定された User を読み取る
 - **PATCH**: 指定された User を部分的に更新する
 - **PUT**: 指定された User を置き換える
- **/apis/user.openshift.io/v1/watch/users/{name}**

- **GET**: 種類 User のオブジェクトへの変更を監視する。非推奨: 代わりに、リスト操作で 'watch' パラメーターを使用し、'fieldSelector' パラメーターで単一の項目にフィルター処理します。

5.2.1. /apis/user.openshift.io/v1/users

HTTP メソッド

DELETE

説明

User のコレクションを削除する

表5.1 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。

表5.2 HTTP レスポンス

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	Status スキーマ
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド

GET

説明

種類 User のオブジェクトをリスト表示または監視する

表5.3 HTTP レஸポンス

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	UserList スキーマ
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド

POST

説明

User を作成する

表5.4 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。
fieldValidation	string	fieldValidation は、不明なフィールドまたは重複したフィールドを含むリクエスト (POST/PUT/PATCH) 内のオブジェクトを処理する方法をサーバーに指示します。有効な値は Ignore です。オブジェクトからサイレントにドロップされた不明なフィールドを無視し、デコーダーが検出した最後の重複フィールドを除くすべてを無視します。これは、v1.23 より前のデフォルトの動作です。 - Warn: オブジェクトから削除された不明なフィールドごと、および検出された重複フィールドごとに、標準の警告応答ヘッダーを介して警告が送信されます。他にエラーがなければ要求は成功し、重複するフィールドの最後のものだけを保持します。これは v1.23 以降のデフォルトです。 - Strict: 不明なフィールドがオブジェクトから削除される場合、または重複フィールドが存在する場合は、リクエストが BadRequest エラーで失敗します。サーバーから返されるエラーには、検出されたすべての不明な重複フィールドが含まれます。

表5.5 ボディのパラメーター

パラメーター	型	説明
body	User スキーマ	

表5.6 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	User スキーマ
201 - Created	User スキーマ
202 - Accepted	User スキーマ
401 - Unauthorized	空白

5.2.2. /apis/user.openshift.io/v1/watch/users

HTTP メソッド

GET**説明**

User のリストに対する個々の変更を監視する。非推奨: 代わりに、リスト操作で 'watch' パラメーターを使用してください。

表5.7 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	WatchEvent スキーマ
401 - Unauthorized	空白

5.2.3. `/apis/user.openshift.io/v1/users/{name}`

表5.8 グローバルパスパラメーター

パラメーター	型	説明
<code>name</code>	<code>string</code>	User の名前

HTTP メソッド**DELETE****説明**

User を削除する

表5.9 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
<code>dryRun</code>	<code>string</code>	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。

表5.10 HTTP レスポンス

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	Status スキーマ
202 - Accepted	Status スキーマ
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド

GET**説明**

指定された User を読み取る

表5.11 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	User スキーマ
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド**PATCH****説明**

指定された User を部分的に更新する

表5.12 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。
fieldValidation	string	fieldValidation は、不明なフィールドまたは重複したフィールドを含むリクエスト (POST/PUT/PATCH) 内のオブジェクトを処理する方法をサーバーに指示します。有効な値は Ignore です。オブジェクトからサイレントにドロップされた不明なフィールドを無視し、デコーダーが検出した最後の重複フィールドを除くすべてを無視します。これは、v1.23 より前のデフォルトの動作です。- Warn: オブジェクトから削除された不明なフィールドごと、および検出された重複フィールドごとに、標準の警告応答ヘッダーを介して警告が送信されます。他にエラーがなければ要求は成功し、重複するフィールドの最後のものだけを保持します。これは v1.23 以降のデフォルトです。- Strict: 不明なフィールドがオブジェクトから削除される場合、または重複フィールドが存在する場合は、リクエストが BadRequest エラーで失敗します。サーバーから返されるエラーには、検出されたすべての不明な重複フィールドが含まれます。

表5.13 HTTP レスポンス

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	User スキーマ
201 - Created	User スキーマ
401 - Unauthorized	空白

HTTP メソッド

PUT

説明

指定された User を置き換える

表5.14 クエリーパラメーター

パラメーター	型	説明
dryRun	string	これは、変更を永続化してはならないことを示します。dryRun ディレクティブが無効な場合や、認識されない場合はエラーの応答が返され、その要求に対する処理はこれ以上行われません。有効な値は All で、すべてのドライランステージが処理されます。
fieldValidation	string	fieldValidation は、不明なフィールドまたは重複したフィールドを含むリクエスト (POST/PUT/PATCH) 内のオブジェクトを処理する方法をサーバーに指示します。有効な値は Ignore です。オブジェクトからサイレントにドロップされた不明なフィールドを無視し、デコーダーが検出した最後の重複フィールドを除くすべてを無視します。これは、v1.23 より前のデフォルトの動作です。- Warn: オブジェクトから削除された不明なフィールドごと、および検出された重複フィールドごとに、標準の警告応答ヘッダーを介して警告が送信されます。他にエラーがなければ要求は成功し、重複するフィールドの最後のものだけを保持します。これは v1.23 以降のデフォルトです。- Strict: 不明なフィールドがオブジェクトから削除される場合、または重複フィールドが存在する場合は、リクエストが BadRequest エラーで失敗します。サーバーから返されるエラーには、検出されたすべての不明な重複フィールドが含まれます。

表5.15 ボディのパラメーター

パラメーター	型	説明
body	User スキーマ	

表5.16 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	User スキーマ
201 - Created	User スキーマ
401 - Unauthorized	空白

5.2.4. /apis/user.openshift.io/v1/watch/users/{name}

表5.17 グローバルパスパラメーター

パラメーター	型	説明
name	string	User の名前

HTTP メソッド

GET

説明

種類 User のオブジェクトへの変更を監視する。非推奨: 代わりに、リスト操作で 'watch' パラメーターを使用し、'fieldSelector' パラメーターで単一の項目にフィルター処理します。

表5.18 HTTP 応答

HTTP コード	レスポンスのボディー
200 - OK	WatchEvent スキーマ
401 - Unauthorized	空白